

平成15年度半島地域活性化優良事例表彰受賞団体及び事例の概要

賞名(表彰者)	道府県名	地域名	団体名	豊後高田商工会議所
国土交通大臣賞 国土交通大臣 石原 伸晃	大分県	国東 (豊後高田市)	事例名	豊後高田「昭和の町」

[概要]

豊後高田市は、国東半島の西部に位置し、市の東部から南部にかけて両子山や日本三叡山のひとつである西叡山がそびえ、北には周防灘が広がる豊かな自然の中にある。近年の郊外型大型店の進出、加えて過疎化・高齢化の進行により商店街は活気のないものとなっていたが、市内商店街には昭和30年代以前に建てられた店舗等が商店街全体の約70%以上も残っていることが分かり、「昭和」という時代に焦点を当てた取組がスタートした。昭和ロマン蔵内には、農機具や農工具、農家の居間を再現した空間、田植風景や収穫風景の写真を展示している。また、懐かしい町づくりを目指し、建具を木製にする、木やブリキを使った昭和の看板に掛け替える。各店舗に伝わるお宝を展示する、「昭和の町」を盛り上げる各種イベントを開催する等の取り組みを行っている。食の提供にも取り組み、特に地元特産の農産物を利用した郷土料理や地魚の加工販売に力を入れ、第一次産業の振興に結びつけている。都市部からの観光客は昭和の懐かしさとともに、普段目にする風景とは対極にある半島地域ならではの田舎の懐かしさを感じ取ることが出来る。また、農業者等も農産加工品の開発等に意欲を見せ始めている。

商店街が活気に溢れていた当時の賑わいを取り戻すために、「生きた昭和の町」づくりに取り組む事により年間20万人が訪れている。商店街を新たな観光地として再生し、商業と観光の一体的振興が進められている点が特徴である。



「豊後高田『昭和の町』」

平成15年度半島地域活性化優良事例表彰受賞団体及び事例の概要

賞名(表彰者)	道府県名	地域名	団体名	石部棚田保全推進委員会
半島地域振興対策協議会長賞 (会長) 和歌山県知事 木村 良樹	静岡県	伊豆中南部 (松崎町)	事例名	棚田オーナー制度 http://www.wbs.ne.jp/bt/matsuzaki/tanada/index.htm

[概要]

松崎町は、伊豆半島の西南部に位置しており、約75%が山林及び原野で、海、山の素晴らしい自然と温暖な気候に恵まれている。平成11年に「静岡県棚田等十選」に認定されたことから、優れた景観と文化的価値をもつ棚田を復元することになり、地域住民と行政等が協力して「石部棚田保全推進委員会」を結成した。地域住民総出により4.2haを復元し、うち1ha程の水田化にこぎつけた。平成14年度より棚田オーナー制度の募集を始め、毎年、募集区画以上の応募があり(15年度は60区画に対し90名の応募)、区画を拡大し提供している。棚田オーナーや地元住民約300人が参加し、田植えや稲刈り等を行うなど、都市と地元の交流を図っている。地域住民は「棚田」を貴重な財産として再認識する一方、都市住民にとっては、農業体験が「心の癒し」につながっている。

伊豆中南部地域独特の地形、気候を最大限活用した「棚田オーナー制度」により、都市住民と地元住民との協働による田植えや稲刈り等が活発に行われ、都市と農山村との交流が進められている点が特徴である。



「棚田オーナー制度」

平成15年度半島地域活性化優良事例表彰受賞団体及び事例の概要

賞名(表彰者)	道府県名	地域名	団体名	和田町
半島地域振興対策協議会議長連絡協議会長賞 (会長) 石川県協議会議長 向出 勉	千葉県	南房総 (和田町)	事例名	ネイチャースクールわくわくWADA

[概要]

和田町は、千葉県の南部の房総半島に位置し、首都圏でありながら、海、森林などの自然が多く残っている。また、日本でも数少ない小型沿岸捕鯨基地があり、千葉県内で唯一「日本の海水浴場55選」にも選ばれている。

東京都のNPO法人ネイチャースクールと運営協力し、都市住民のニーズを把握しながら、「農業学」「森へ入る」「くじら学」など、農林漁業全般にわたり地元住民が講師となり都市の社会人を対象とした体験教室を年間通して開講している(14年度は15回開催延べ265名参加)。講座は対象者により「定期講座」「専門エキスパート講座」と体系的に整理されている。また、ネイチャースクールの拠点である自然の宿「くすの木」は廃校となった小学校を改築したものである。都市住民の中には、和田町の歴史や文化、地域住民とのふれあいなどを満喫して、第2のふるさととしている参加者や将来和田町に住みたいとする参加者も多い。地域住民は、自分の住んでいる町の素晴らしさが都市住民から評価されていることで、地域に対する意識や関心を高められ、自信に繋がりは始めている。

東京都のNPO法人と半島地域の連携により、都市住民からの意見の調整や講師の選定など双方向で企画立案し、体験交流を継続して実施している点が特徴である。



「ネイチャースクールわくわくWADA」

平成15年度半島地域活性化優良事例表彰受賞団体及び事例の概要

賞名(表彰者)	道府県名	地域名	団体名	大間やると会
全国半島振興市町村協議会長賞 (会長) 北海道知内町長 脇本 哲也	青森県	下北 (大間町)	事例名	2003 朝やげ夕やげ横やげ～大間超マグロまつり

[概要]

大間町は、本州最北端に位置し、津軽海峡を挟んで北海道汐首岬までわずか17.5kmしか離れておらず、晴れた日には間近に北海道を見渡すことが出来る。また、三方を海に囲まれている土地柄、漁業を主産業としている。

大間やると会は、最大の地域資源である「大間マグロ」と、毎年10月下旬に一つの場所で太平洋から昇る朝日と日本海に沈む夕日の両方が見られるという全国でも珍しい風景をPRし、マグロ漁の漁期に合わせ例年10月下旬に、下北半島の地理条件を最大限に活用した各種イベントを開催している。「海辺で食べる朝ごはん」「マグロ漁ウォッチング」は2日間で延べ約550人が参加した。また、「マグロ解体ショー&即売」は3日間で100^{kg}以上のマグロ7本を解体し、即完売となった。イベント開催期間中には約1万人程度が来場し、町の宿泊施設・飲食店等も観光客で賑わい、集客及び広域的な経済効果としては多大なものとなり、大間町の一大会事として確立されている。

地元住民がマグロを通して「マグロで外からこんなに人がくる」ことを認識し住民意識の活性化につながっている一方、都市住民も荒々しい自然を体感するとともに、方言や郷土料理、人との交流の楽しさを再認識している点が特徴である。



「2003 朝やげ夕やげ横やげ～大間超マグロまつり」